

大学教育研究センター全学FD事業

第23回大学教育研究セミナー(7月13日研究員会議終了後開催)  
高大接続入試改革の現状と問題点

センターの研究員による調査結果の報告およびセンター研究員間での意見交換の場である大学教育研究セミナー、今年度2回目の開催です。

今回は昨年度に引き続き、入試改革の動向のその後の状況と問題点について、センター専任研究員の久保敦副所長から、報告を行っていただきます。

今回も前回同様、大学教育研究センター研究員会議の終了後に、センターの研究員および事務職員の方々を対象に開催いたします。お忙しいなかではありますが、センターの教職員の皆さまは、どうぞご参加いただければと存じます。

「第23回大学教育研究セミナー」

日時：2018年7月13日(金) 研究員会議終了後(11:10頃)～12:10

場所：全学共通教育棟2階会議室

テーマ：

「高大接続入試改革の現状と問題点」

【センター研究員による研究成果報告】

発表者(兼企画担当)： 久保敦 大学教育研究センター副所長・教授

2021年4月の大学入学者より、現在の大学入試センター試験が廃止され、新たな「大学入学共通テスト」が導入され、入試制度大きく変わることはご承知の通りです。それに伴いマスメディアによる入試改革に関する報道が盛んになされています。しかし、その報道内容はなぜか「記述式」の導入、「英語四技能評価」や「英語外部資格・検定試験」の導入に集中しており、問題の本質や全体像がつかみにくい状況となっています。その一方で、実施に当たっての技術的な課題が克服されていないことを始め、数々の問題点が入試関係者によって指摘されています。

本セミナーでは「高大接続入試改革の現状と問題点」をテーマに高大接続入試改革に伴う問題点の全体像を俯瞰し、今後の課題を参加者とともに考えます。

(運営担当:飯吉)

以上